

映画 <初夏、ユーロスペースにて革命的ロードショー>

『コマンダンテ』

長友清顕

『サルバドル／遙かなる日々』でも知られるハリウッド屈指の「社会派監督」オリバー・ストーンが、アイゼンハワーからブッシュまでの歴代米国大統領10人と渡りあってきたキューバの最高指導者、フィデル・カストロに迫った歴史的ドキュメンタリー。



© 2003- Mediaproducción S.L. 2002. All rights reserved.

スペインのTV局がストーン監督に、フィデル・カストロのインタビューを打診したことから、このプロジェクトがスタートした。カストロは「いつでも撮影をやめることが出来るなら」という条件の下、インタビューに同意。製作チームは30時間以上にも亘りインタビューをおさめたが、カストロはただの一度もカメラを止める要請はしなかったという。本作は、2003年1月のサンダンス映画祭にてプレミア上映され、その後もベルリン国際映画祭をはじめ数々

の映画祭にて上映されたが、「キューバ政策に反する」として米国での上映は禁止された。半世紀にわたる政治の変動と戦いつづけてきた「ちいさな強国」の指導者の素顔が今はじめて世界に向けて映し出される。

ストーン監督はカストロと共にカメラの前に身をおいて打ち解けた雰囲気を作りだし、本音を語らせようとする。ストーンと交わされていく会話の中で、カストロは自身の青春時代、政治勢力を固めていく過程、そして彼の見る今のキューバについて包み隠さず語っていく。アメリカの歴代大統領や旧ソ連の権力者たちについての鋭いコメントや、キューバ危機の知られざる裏側など、興味は尽きない。さらに、ケネディ暗殺、ベトナム戦争など、ストーンお気に入りのテーマについてのカストロのコメントもある。



© 2003- Mediaproducción S.L. 2002. All rights reserved.



© 2003- Mediaproducción S.L. 2002. All rights reserved.

誰もが聞くことをタブーとしていた問題についても、ストーンは臆面なく質問する。チェ・ゲバラとの48時間会合の内容までも。時には批判的な問いに対しても真正面から答え、ときに答えをはぐらかすカストロ。巧みな話術で知られ

るカストロなので、どこまでが真実かはわからない。だが、アメリカと敵対関係にあるにも関わらず、ハリウッド映画『タイタニック』や『グラディエーター』をビデオで観たとあっさり認め、無神論者であると語りつつも宗教に多くの人々を癒す力があると認める。さらに、「あなたは独裁者ですか？」という質問に対して、「私は自分自身の独裁者であり、国民の奴隷、それが私だ」と答える。こういったやり取りの中に、人間カストロを垣間見ることが出来る。

(ながとも・きよあき／アルシネテラン)

2003 年／アメリカ・スペイン合作／カラー／100
分／アメリカン・ヴィスタ／ドルビーSRD／
原題：Comandante／
配給：アルシネテラン／後援：キューバ大使館

ラテンアメリカ参考図書案内③

『雲の上で暮らす ―アンデス・ヒマラヤ高地民族の世界』

山本 紀夫 ナカニシヤ出版 2006 年 12 月 389 頁 2,600 円＋税

アンデス民族学研究者で、『インカの末裔たち』（日本放送出版協会 1992 年）、『ジャガイモとインカ帝国』（東京大学出版会 2004 年）、『ラテンアメリカ楽器紀行』（山川出版社 2005 年）の著作があり、これまで 40 年間のアンデス、そして近年はヒマラヤ、チベット、エチオピア調査を続けてきた著者（国立民族学博物館教授）の、両地域に住む高地に暮らす人々の姿を描いた集大成。

ジャガイモ原産地を求め、クスコから 200km も奥に入った標高 4000m のマルカパタ村で本格的な現地調査を始め、通算 10 年にわたるアンデス等世界の高地での滞在を通じて、自然環境、その過酷な条件の中で営まれる農牧などの生業、祭りなどの実体験を綴った、高地で暮らす人々の生活のフィールド・サーベイ記録。現地再訪により、時の流れのなかで起きている変容もまじえ、民族学に関心のある読者には特に興味深い。

[桜井 敏浩]